

ハイパーターミナルを使用して、EM30A型伸縮計のデータを回収する手順

- (1)ご使用のパソコンとEM30A型伸縮計をRS232Cケーブルで接続します。
- (2)ハイパーターミナルを起動します。



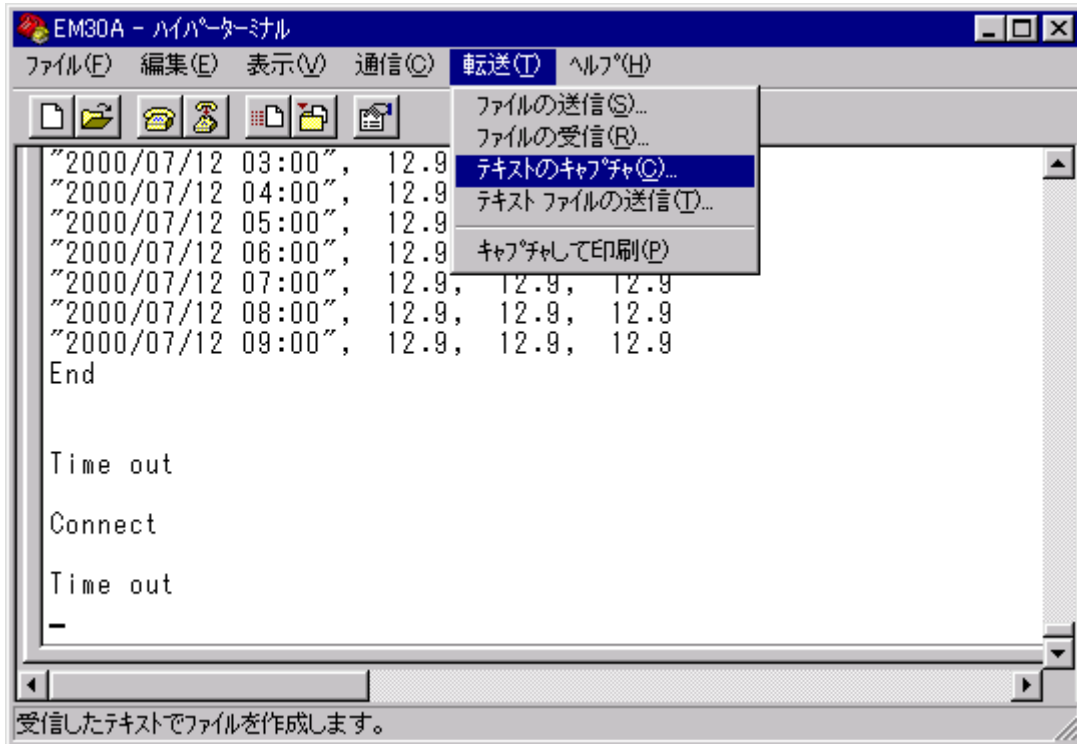
- (3)データの表示と確認を行います。データをそのままファイルに落としたい場合は(4)へ進んでください。

以下は“ D T H ”コマンドを入力した時の出力結果です。各コマンドの機能と説明は「取扱説明書」を参照して適当なものを入力してください。



(4)データの表示と回収を行います。

転送 テキストのキャプチャをクリックしてください。



(5)データの転送先を指定します。

Excel等で処理する場合は必ず拡張子に.csvを付けてください。

今回はAドライブのDATA10.csvファイルに転送します。



開始をクリックすると、それ以降画面に表示されたものは全てファイルに転送されます。

(6)データ転送コマンド例(詳細はEM-30A取扱説明書を参照ください)

DTD: 1日毎のデータをCSV形式で表示します

DTH: 1時間毎のデータをCSV形式で表示します。

DT5: 5分毎のデータをCSV形式で表示します

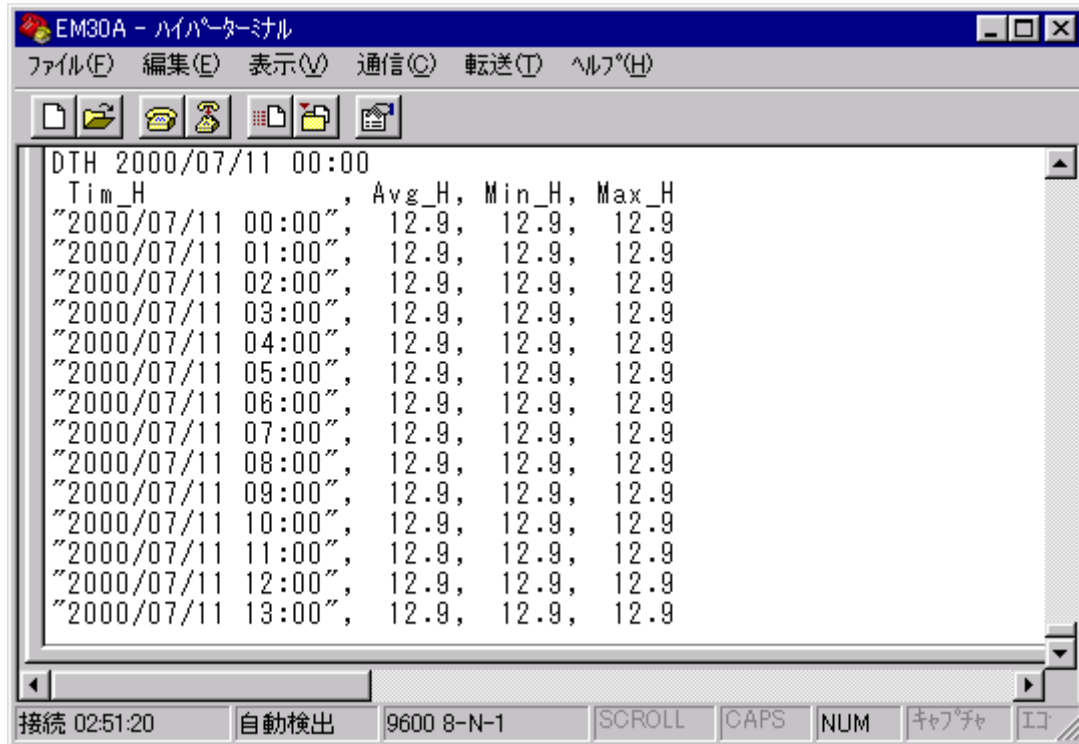
コマンドの後ろに「スペース+日付」を入力してリターンを押すと、そこからのデータが表示されます。何も入力しないと、全てのデータを表示します。終わりは指定できません。

例 DTD 1998/09/01

*表示中に「スペース」を押すと一時中止し、もう一度押すと表示を再開します。

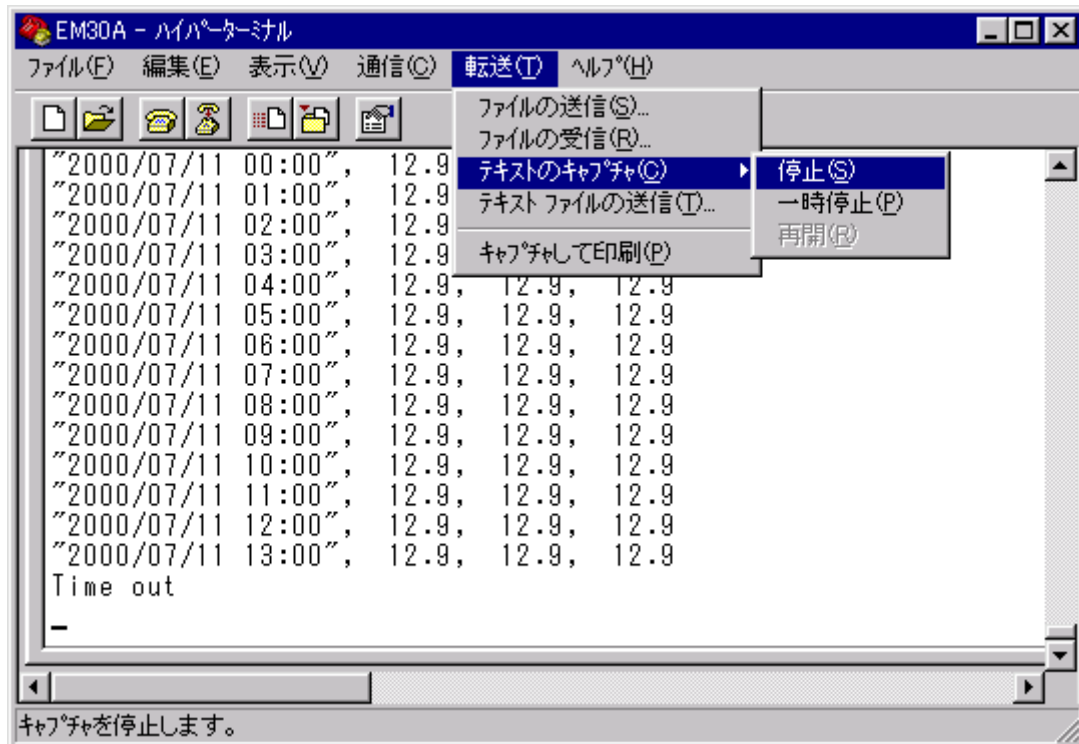
*表示中に「リターン」を押すとコマンドを途中解除し、元の画面に戻ります。

- (7)以下は“ D T H 2000 / 07 / 11 00 : 00 ”とコマンド入力した場合です。すなわち 2000 年 7 月 11 日午前零時から現在までの最新データを回収することになります。



- (8)データ回収を終了します。

データの表示が終了すると、転送 テキストのキャプチャ 停止をクリックします。



- (9)ハイパーターミナルを終了します。

データの転送先にファイルがあるか確認してください。